

名古屋港におけるスナメリの漂着記録 (2023年)

加古 智哉 小林 清重 榊原 正己 神田 幸司

名古屋港水族館・公益財団法人名古屋みなと振興財団 〒455-0033 愛知県名古屋市港区港町1-3

Stranding Records of finless porpoises at The Port of Nagoya in 2023

Tomoya KAKO Kiyoshige KOBAYASHI
Masaki SAKAKIBARA Koji KANDA

Port of Nagoya Public Aquarium, Nagoya Port Foundation 1-3 Minatomachi, Minato-ku, Nagoya, Aichi 455-0033, Japan.

Correspondence:

Tomoya KAKO E-mail: t-kako@nagoyaminato.or.jp

要旨

2023年に名古屋港では1年間の記録として最多の5頭のスナメリ *Neophocaena asiaorientalis* が死亡漂着した。5頭中4頭は4、5月に漂着した。また5頭中3頭が雄であった。1頭は海中に沈んでいるところを発見し、回収して解剖を行った。発見から2日が経過してから解剖したが、内臓等は比較的新鮮な状態を保っていた。胃内容物は魚やイカなどのわずかな欠片のみであった。目立った外傷は見られず、死因は不明であった。

In 2023, a record number of five finless porpoises (*Neophocaena asiaorientalis*) were found dead and stranded at The Port of Nagoya. Four of these strandings occurred in April and May, and three of the five porpoises were males. One individual was discovered submerged, retrieved, and subsequently necropsied. Although the necropsy was performed two days after discovery, the internal organs were relatively well-preserved. The stomach contents was fragments of fish and squid, and no significant external injuries were observed. The cause of death remains undetermined.

序文

スナメリ *Neophocaena asiaorientalis* は東アジアの沿岸域に生息する、背びれを持たない小型のハクジラ類の一種である。名古屋港内では冬から春に多くのスナメリが来遊し (齋藤ほか, 2014; 吉田ほか, 2024), 河川への迷入や港内での漂着も確認されている (齋藤ほか, 2014; 曾根・野呂, 2021; 加古ほか, 2024; 神田ほか, 2024)。名古屋市版レッドリスト2020では絶滅危惧 I A 類に指定されており (名古屋市, 2020), 人為的な影響を受けることが危惧されている。名古屋港水族館では開館以来、名古屋港を中心に鯨類の漂着の情報収集に努め

ており、名古屋港内では1999年から2021年に15頭のスナメリの漂着を確認している (加古ほか, 2024)。2023年はこれまでで最多の年間5頭のスナメリの漂着を確認したので報告する。また1頭は名古屋港に流入する河川である山崎川の河口で沈んでいる状態で発見された。死亡したスナメリは海岸に漂着した状態で発見されることが多いが、本個体は海中から回収し、解剖したのであわせて報告する。

材料および方法

名古屋港内でスナメリの死亡漂着が発生し、名古屋港

水族館に連絡が入った場合、漂着個体を回収し、発見年月日、発見場所、体長、および性別を記録した。本調査における「名古屋港内」とは、愛知県知多市南端と弥富市富浜地先を結ぶ名古屋港港湾区域（名古屋港管理組合、2024）とし、流入河川も対象とした（図1）。体長は上顎先端から尾びれ分岐部までの長さとし、巻き尺を用いて1 cmの精度で測定した。性別は生殖溝および生殖腺を確認して判別した。発見者には発見日時、発見場所を回答してもらい、個体回収の際に水族館の職員が漂着位置を確認した。本調査期間は2023年1月1日から12月31日とした。スナメリは水産資源保護法対象種であるため、愛知県農業水産局水産課を通じて、農林水産大臣から試験研究等の許可を名古屋港水族館として予め受けている。また漂着個体を調査した場合は、愛知県農業水産局水産課および同課を通じて水産庁に報告を行った。

結果

1. 名古屋港内のスナメリの漂着記録

期間中に5個体のスナメリを調査した。漂着した日付、個体ごとの性別、体長、漂着場所、発見者などを表1に

示した。また、漂着場所は地図中（図1）に示し、個体の写真を図2に示した。月別の漂着個体数は4月が2個体、5月が2個体、2月が1個体であった。漂着個体の性別は雄が3個体、性別不明が2個体であった。測定できた漂着個体（4個）の体長の範囲は130～195 cmであった。個体番号2は、着岸した岸壁が高く計測および回収は不可能であったため、写真撮影のみを行った。写真の特徴からその後に漂着した個体（個体番号3）とは別個体であると考えられた。

2. 山崎川河口で回収したスナメリ

発見から回収までの経過

2023年2月9日に名古屋市港区大江町にある山崎川河口（35°8'99" N : 136°89'7"E）で、「岸壁から見える海の底にスナメリが沈んでいるのを発見した」と名古屋港水族館に連絡が入った。その日のうちに、名古屋港管理組合の所有する船舶「あしづき」（9.1 t）に乗船し、海側から現場を確認したが、スナメリを発見することはできなかった。翌日2月10日に通報者から現場の動画の提供を受け、2月11日午前中に陸側から現場を確認し、沈

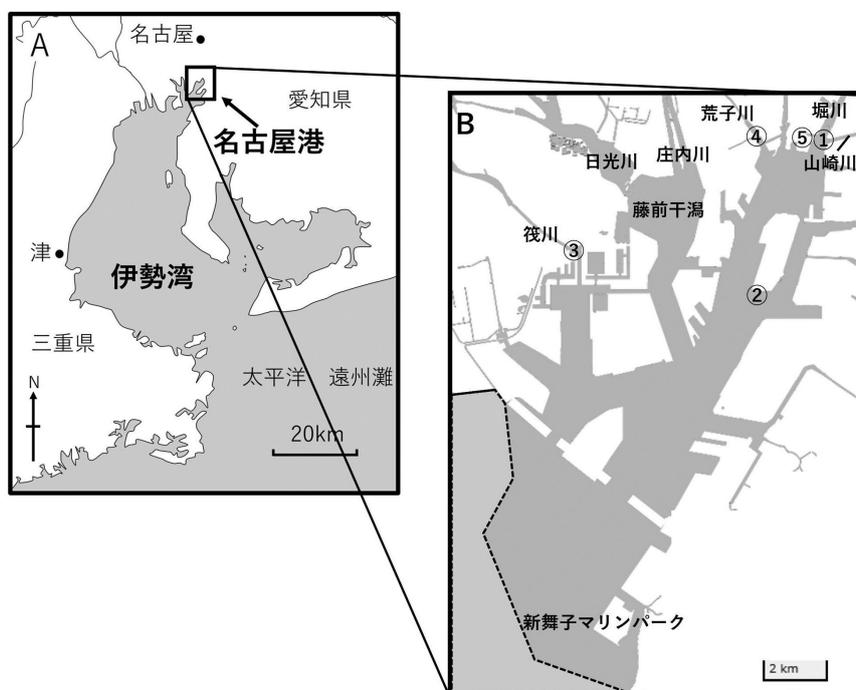


図1. (A) 名古屋港の位置 (B) 名古屋港 (B) 中の点線は名古屋港港湾区域の境界を示し、数字は漂着したスナメリの個体番号と漂着地点を示す。本図は地理院地図（国土地理院）を加工して作成

加古ほか（2025）名古屋港におけるスナメリの漂着記録（2023年）

表1. 2023年に名古屋港内に死亡漂着したスナメリ

個体番号	日付	頭数	性別	体長 (cm)	場所	発見者	備考	写真
1	2023/2/8	1	雄	195	愛知県名古屋市大江町 (山崎川河口)	市民	海底に沈んでいるところを回収。新鮮。空胃。	図2-1
2	2023/4/16	1	雄	不明	愛知県名古屋市港区潮見町37-11	市民	腐敗進行中、黒色化、表皮剥離。	図2-2
3	2023/4/20	1	雄	148	愛知県海部郡飛島村新政成7丁目 (筏川排水機場)	市民	腐敗顕著。	図2-3
4	2023/5/5	1	不明	160	愛知県名古屋市港区一洲町 (荒子川ポンプ場付近)	市民	腐敗顕著。	図2-4
5	2023/5/8	1	不明	130	愛知県名古屋市港区入船1-4-1	港湾関係者	腐敗顕著。	図2-5

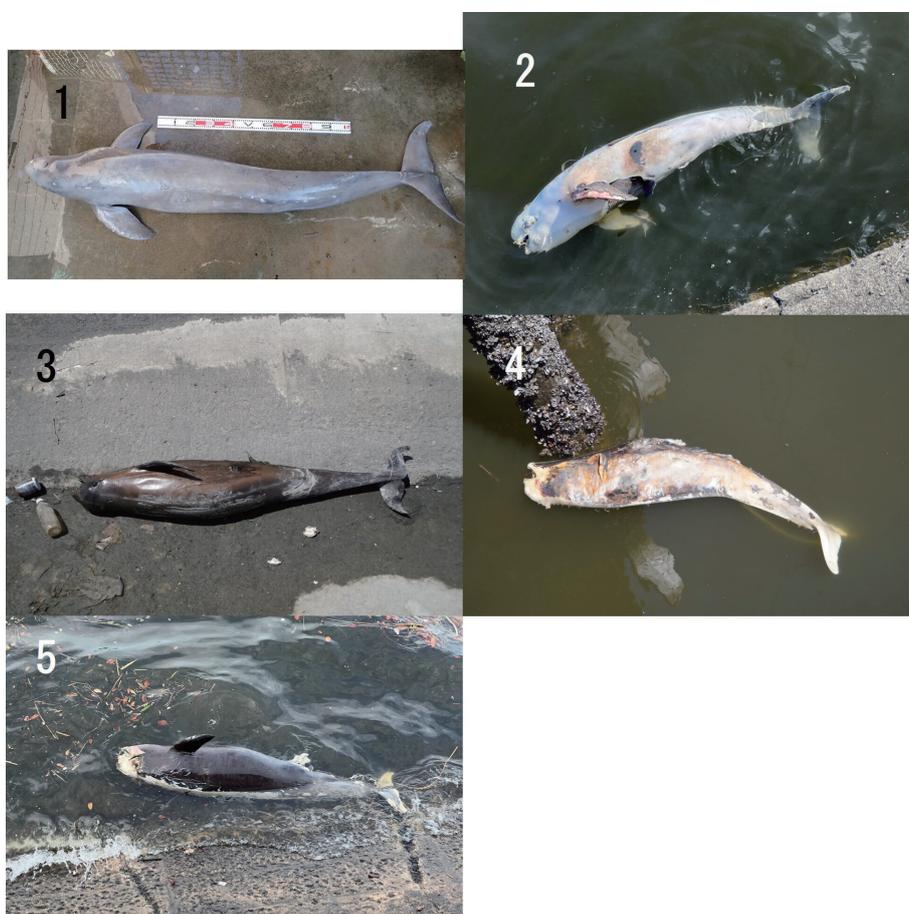


図2. 名古屋港に漂着したスナメリ
1. 個体番号1, 2. 個体番号2, 3. 個体番号3, 4. 個体番号4, 5. 個体番号5

んでいるスナメリを発見した。陸側からの引き揚げは困難と判断し、2月11日午後には再び「あしづき」に乗船して海側から現場まで近づき、船から潜水者1名が海へと入って、水深2mほどに沈んでいるスナメリを確認した。尾柄部にロープを縛り、潜水者が船までスナメリを曳航

し、船上に大人4名で引き揚げた。現地の水温は12.7℃であった。潜水者が潜り始めてからスナメリを引き揚げるまでは21分であった。その後、船で名古屋港水族館近くの船着き場まで運び、車に乗せ換えて名古屋港水族館へと持ち帰った。

解剖

解剖はスナメリを持ち帰ってすぐに名古屋港水族館の敷地内で、著者のうち3名で行った。スナメリの表面には若干の傷が見られたが、激しい損傷はなかった。表面の傷は生前のものか、死後にできたものかの判断はつかなかった。全身は細く、削瘦状態であると推測された。また歯は著しく摩耗していた(図3)。日本鯨類研究所のスタンディングレコード用紙に従い、外部計測を行った。計測値は表2に示した。性別は生殖溝にペニスを確認したことから雄と判定された。計測後、開胸、開

腹して各臓器の観察を行った。腐敗は進んでいない状態で各臓器を観察したが、死因となるような所見を確認することはできなかった。胃内容物は石、種不明のイカの顎板、種不明の魚の眼の水晶体および椎骨、判定不明の白い物質の5つであった(図4)。全てわずかな欠片があるのみで、外見で種を判別することは不可能であった。



図3. 山崎川から回収したスナメリ(個体番号1)の左上顎の歯

表2. 山崎川河口から回収したスナメリの外部形態計測値

計測箇所	(cm)
上顎先端 - 尾鰭分岐部	195
上顎先端 - 口角後端	9
上顎先端 - 噴気口中央部	14
上顎先端 - 眼中央	13
上顎先端 - 耳開口部	21.5
上顎先端 - 胸鰭基部	34
上顎先端 - 臍中央	80
上顎先端 - 生殖器中央	111.5
上顎先端 - 肛門中央	135
胸鰭前長	34.5
胸鰭後長	26
胸鰭最大幅	13
尾鰭幅	56.5
尾鰭分岐部 - 尾柄部	15
胴周(肛門位置)	50
胴周(臍位置)	75.5

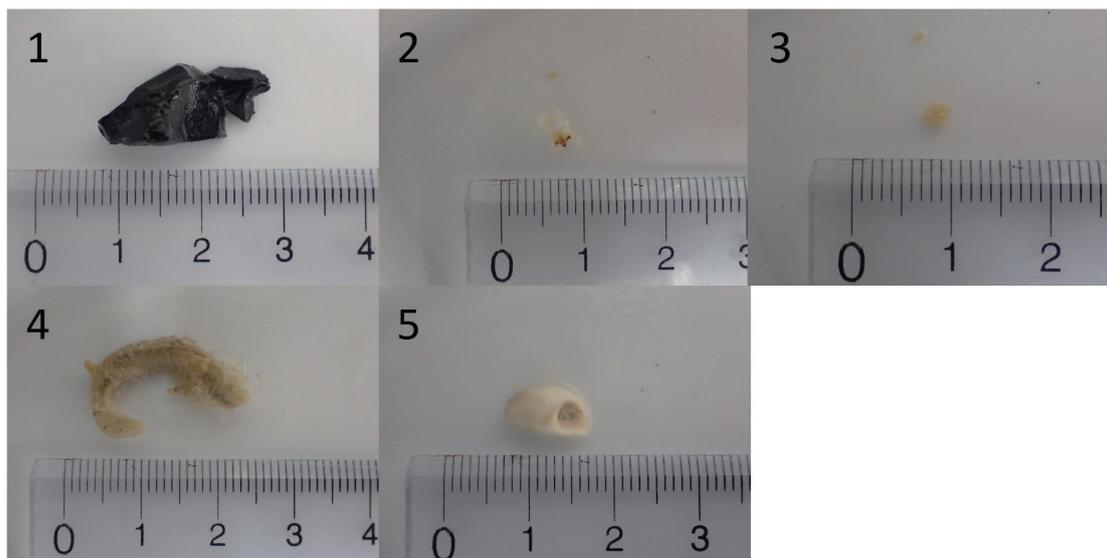


図4. 山崎川から回収したスナメリ(個体番号1)の胃内容物
1. 石 2. 種不明のイカの顎板 3. 種不明の魚の眼の水晶体 4. 種不明の魚の椎骨 5. 判定不明の白い物質

計測・観察の終了後、腎臓・肝臓・筋肉・脂皮をそれぞれエタノール漬けと冷凍で保存し、頭部を冷凍で保管し、歯はエタノールに漬けて名古屋港水族館で保管した。全ての作業に要した時間は2時間程度であった。

考察

名古屋港におけるスナメリの漂着は4、5月が中心であり(加古ほか, 2024)、本年も同じ傾向であった。また漂着個体は雄が多いということも、これまでの傾向と同じであった。

加古ほか(2024)では23年間の死亡漂着のうち15件中9件が港湾関係者による発見であったが、本年は5件中4件が市民からの連絡であり、報告者の増加による漂着の発見の増加が示唆された。しかし、スナメリが名古屋港に以前より多く来遊しているという可能性もある。漂着記録だけでなく、名古屋港に来遊する個体数や生態もあわせて調査する必要がある。

山崎川の河口から回収されたスナメリは著しい歯の摩耗が認められた。スナメリの老齢個体は歯が摩耗することが知られており(粕谷, 2011)、本個体も老齢個体であることが推測された。胃の中にはわずかな水生生物しか見られず、外見に削瘦が認められたことから、しばらく採餌することができていなかったと考えられた。しかし、採餌不可になった理由については不明である。通報から回収および解剖までの日数は2日であった。その間スナメリは同じ場所に沈んでいたが、表面の損傷はほとんど見られず、内臓の腐敗も進んでいなかった。死んで海岸に漂着したものは、黒い表皮が漂着から3日以内にすべて失われたことが報告されている(丸山, 2016)。今回は冬で水温が低かったこともあり、死体の腐敗や生物からの腐肉食が陸上ほど進行せず、良好な状態で保存された可能性がある。

謝辞

死亡漂着したスナメリは、その一次情報を港湾関係者の方々と市民の皆様から提供いただいた。名古屋港管理

組合および公益財団法人名古屋みなと振興財団の関係各位には漂着個体の収集や保管に際し多大な協力をいただいた。本調査の標本には著者が採集した個体の他、当館同僚諸氏が収集した個体を含んでいる。また四日市大学の古山歩特任准教授には胃内容物の判別に有益なご助言を頂いた。これらの方々に対し心から深く謝意を表する。

引用文献

- 加古智哉・小林清重・阿久根雄一郎・神田幸司・森 朋子・福本洋平・大友 航・大島由貴・春日井 隆. 2024. 名古屋港における 1999年~2021年のスナメリの死亡漂着. なごやの生物多様性, 11: 29-34.
- 粕谷俊雄. 2011. スナメリ. イルカ-小型鯨類の保全生物学, pp.185-246. 東京大学出版会, 東京.
- 神田幸司・堂崎正博・森 朋子・漁野真弘・春日井 隆. 2024. 名古屋市内の河川で目撃されたスナメリ *Neophocaena asiaeorientalis*. なごやの生物多様性, 11: 23-28.
- 丸山啓志. 2016. お宝は、化石の遺体とうんち!?. はじめてのフィールドワーク②海の哺乳類編, pp.147-179. 東海大学出版部, 平塚.
- 名古屋港管理組合. 2024. 名古屋港要覧. https://www.port-of-nagoya.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/003/202/202309211.pdf. 2024年8月13日確認
- 名古屋市. 2020. 名古屋市版 レッドリスト 2020. <https://www.city.nagoya.jp/kankyō/cmsfiles/contents/0000125/125632/redlist2020.pdf>. 2024年12月27日確認
- 齋藤 豊・堂崎正博・祖一 誠. 2014. 名古屋港に生息するスナメリの調査. 海洋と生物, 36: 29-35.
- 曾根啓子・野呂達哉. 2021. 藤前干潟に漂着したスナメリ (*Neophocaena phocaenoides*) の収容と標本化. なごやの生物多様性, 8: 133-137.
- 吉田弥生・木村里子・神田幸司・栗田正徳. 2024. 2017-2019年における伊勢湾最奥の名古屋港に来遊したスナメリの音響記録. 哺乳類科学, 64: 207-213.